

## せっき 二十四節気・・・二十四節気は太陽の動きをもとにしています。

太陽が移動する天球上の道を黄道といい、黄道を24等分したものが二十四節気です。

★調べて空欄に読み仮名、数字を入れてみましょう。

( ) 立春	月 日	暦の上では春の始まり。 1年の始まりでもある。
うすい 雨水	月 日	雪から雨へと変わり、降り積もった雪も溶け出す頃。
けいちつ 啓蟄	月 日	大地が温まって、冬ごもりから目覚めた虫が、穴をひらいて顔を出す頃。
( ) 春分	月 日	昼夜の長さがほぼ同じになるになる日で、この日を境に日が延びていく。「自然をたたえ、生物をいつくしむ」として <b>国民の祝日</b> 。
せいめい 清明	月 日	花が咲き、鳥は歌い、空は青く澄み、爽やかな風が吹き、すべてのものが春の息吹を謳歌する頃。
こくう 穀雨	月 日	春の柔らかな雨に農作物がうるおうという意味です。
( ) 立夏	月 日	この日から暦の上では夏となります。
しょうまん 小満	月 日	陽気が良くなり草木が成長して茂るという意味。
ぼうしゅ 芒種	月 日	稲などの穀物の種をまく時期。田植えの目安とされている。
( ) 夏至	月 日	1年で最も昼が長い日。夏至を過ぎると暑さが増して本格的な夏がやってくる。
しょうしょ 小暑	月 日	だんだん暑さが増して梅雨明けが近づいてくる。 小暑と大暑を合わせた1か月を「暑中」という。
たいしょ 大暑	月 日	夏の暑さが本格的になるという意味。
( ) 立秋	月 日	厳しい暑さが続くが、この日から暦の上では秋となる。 立秋を過ぎてから「残暑」となる。
しょうしょ 処暑	月 日	暑さが終わるという意味。
はくろ 白露	月 日	秋が深まり、草花に朝露がつき始めるという意味。
( ) 秋分	月 日	昼夜の長さがほぼ半分になる日で、この日を境に日が短くなり、秋の夜長に向かう。「祖先を敬い、亡くなった日をしのぶ日」として <b>国民の祝日</b> 。
かんろ 寒露	月 日	草木に冷たい霜が降りるという意味。

そうこう 霜降	月 日	早朝に霜が降りるという意味。 紅葉が深まる時期。
( ) 立冬	月 日	この日から暦の上では冬。
しょうせつ 小雪	月 日	木々の葉が落ち、山には初雪が舞い始める頃。
たいせつ 大雪	月 日	本格的な冬の到来で、動物たちも冬ごもりを始めます。
( ) 冬至	月 日	1年で最も夜が長く、昼が最も短い日。柚子湯などで、厄払いや無病息災を願う風習があります。
しょうかん 小寒	月 日	この日を「寒の入り」といい、寒さの始まりを意味する。
だいかん 大寒	月 日	冷え込みが激しく、寒さが最も厳しい頃。

